

盛岡市動物公園  
記者発表資料

株式会社盛岡パークマネジメント

2020.3.30

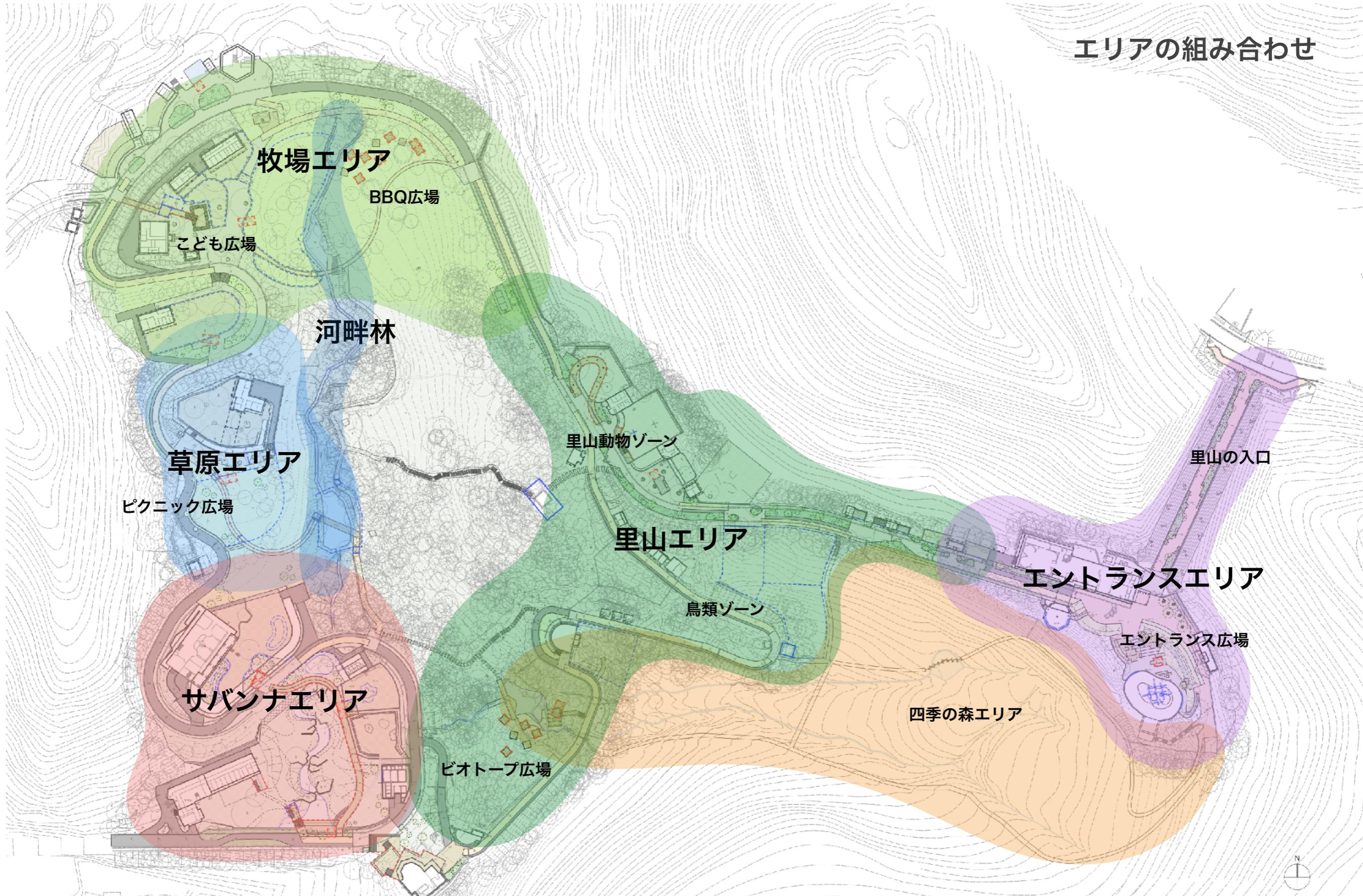
# ランドスケープデザイン基本設計

# 全体計画平面図



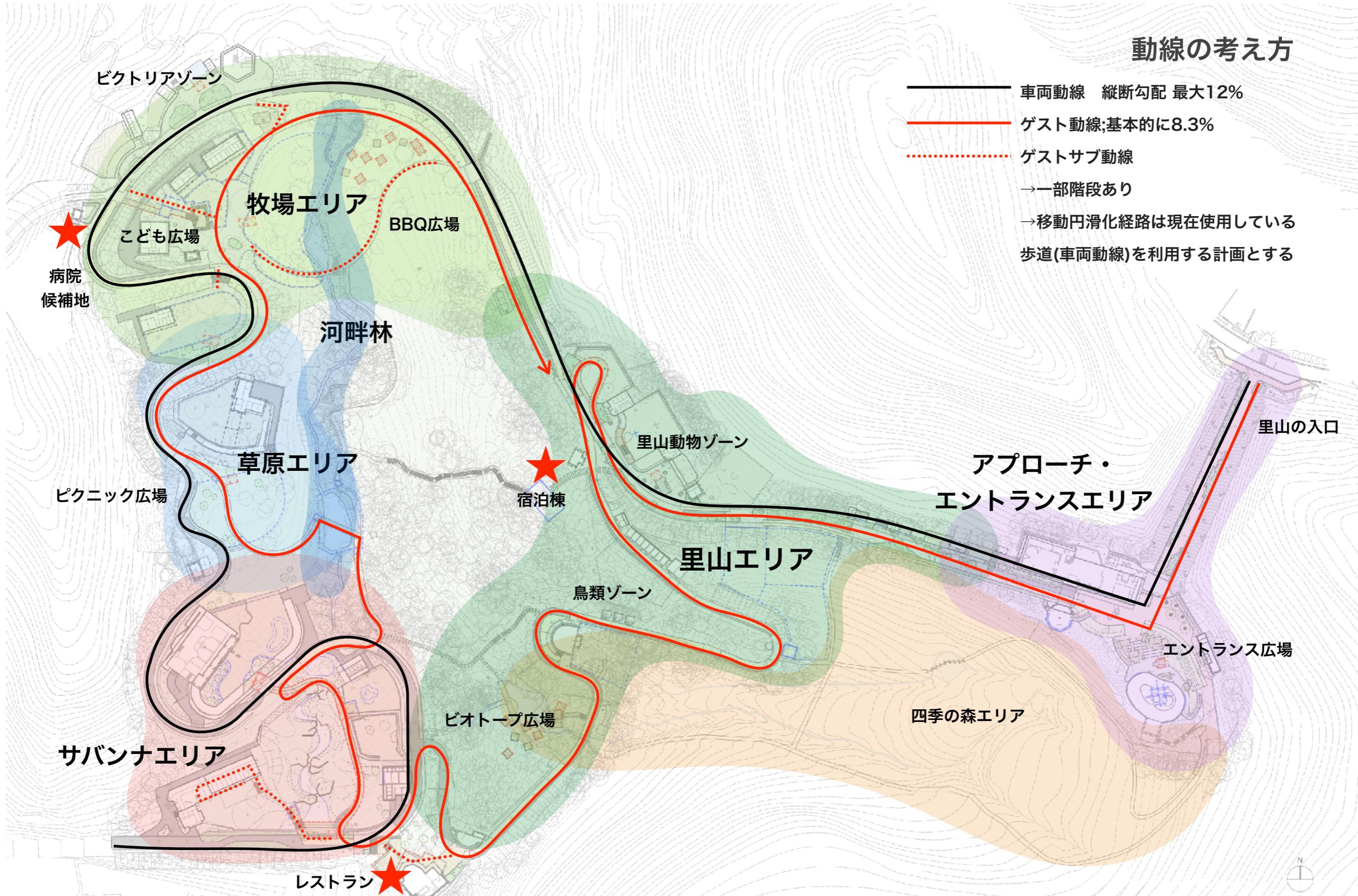
<b>studio on site</b> オンサイト計画設計事務所	一級建築士事務所 東京都知事登録 第61964号 一級建築士 第321161号 苗木裕史	105-0014 東京都港区赤坂3-24-1 5Fビル5F Surge Bldg. 3F, 3-24-1 Shiba Niimata-ku Tokyo TEL: 03-5444-3106 / FAX: 03-5444-3107	国土環境省 建設省	建設省 建設省	工事名称 盛岡市動物公園 ランドスケープ基本設計	日付 2020.02.18	図面番号 3
					図面名称	縮尺 S=1:1600(A3)	

# エリアの組み合わせ

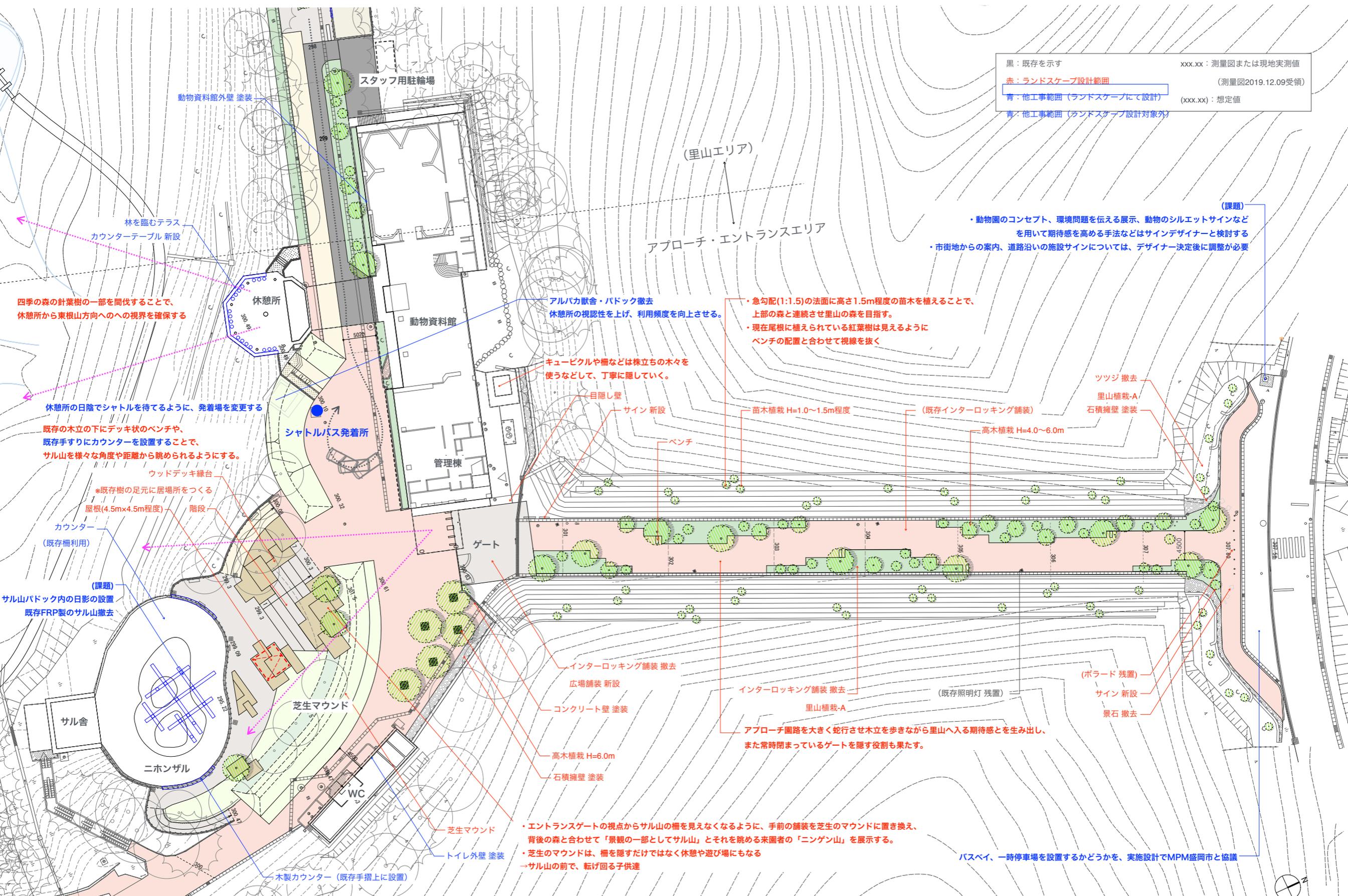


# 動線の考え方

- 車両動線 縦断勾配 最大12%
- ゲスト動線;基本的に8.3%
- ⋯ ゲストサブ動線
- 一部階段あり
- 移動円滑化経路は現在使用している歩道(車両動線)を利用する計画とする



黒：既存を示す  
 xxx.xx：測量図または現地実測値  
 (測量図2019.12.09受領)  
 赤：ランドスケープ設計範囲  
 青：他工事範囲(ランドスケープにて設計)  
 (xxx.xx)：想定値  
 青：他工事範囲(ランドスケープ設計対象外)



(課題)  
 ・動物園のコンセプト、環境問題を伝える展示、動物のシルエットサインなどを用いて期待感を高める手法などはサインデザイナーと検討する  
 ・市街地からの案内、道路沿いの施設サインについては、デザイナー決定後に調整が必要

・急勾配(1:1.5)の法面に高さ1.5m程度の苗木を植えることで、上部の森と連続させ里山の森を目指す。  
 ・現在尾根に植えられている紅葉樹は見えるようにベンチの配置と合わせて視線を抜く

アルパカ獣舎・パドック撤去  
 休憩所の視認性を上げ、利用頻度を向上させる。

キュービクルや柵などは株立ちの木々を使うなどして、丁寧に隠していく。

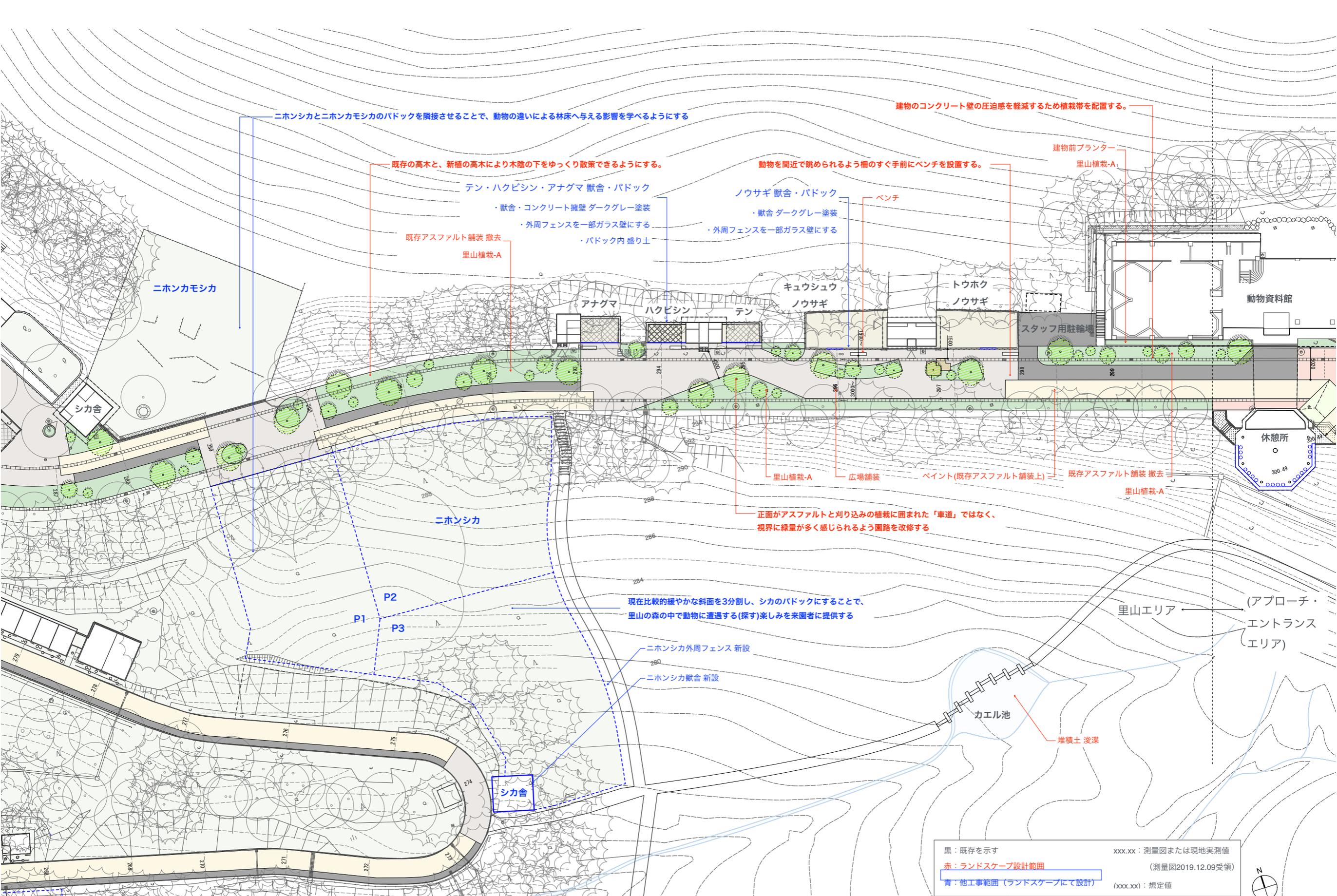
四季の森の針葉樹の一部を間伐することで、休憩所から東根山方向への視界を確保する

休憩所の日陰でシャトルを待てるように、発着場を変更する  
 既存の木立の下にデッキ状のベンチや、既存手すりにカウンターを設置することで、サル山を様々な角度や距離から眺められるようにする。

(課題)  
 サル山パドック内の日影の設置  
 既存FRP製のサル山撤去

・エントランスゲートの視点からサル山の柵を見えなくなるように、手前の舗装を芝生のマウンドに置き換え、背後の森と合わせて「景観の一部としてサル山」とそれを眺める来園者の「ニンゲン山」を展示する。  
 ・芝生のマウンドは、柵を隠すだけではなく休憩や遊び場にもなる  
 →サル山の前で、転げ回る子供達

バスベイ、一時駐車場を設置するかどうかを、実施設計でMPM盛岡市と協議



ニホンシカとニホンカモシカのバドックを隣接させることで、動物の違いによる林床へ与える影響を学べるようにする

建物のコンクリート壁の圧迫感を軽減するため植栽帯を配置する。

既存の高木と、新植の高木により木陰の下をゆっくり散歩できるようにする。

動物を間近で眺められるよう柵のすぐ手前にベンチを設置する。

建物前プランター  
里山植栽-A

テン・ハクビシン・アナグマ 獣舎・バドック  
 ・獣舎・コンクリート擁壁 ダークグレー塗装  
 ・外周フェンスを一部ガラス壁にする  
 ・バドック内盛り土

ノウサギ 獣舎・バドック  
 ・獣舎 ダークグレー塗装  
 ・外周フェンスを一部ガラス壁にする

ベンチ

既存アスファルト舗装 撤去  
里山植栽-A

ニホンカモシカ

アナグマ

ハクビシン

テン

キュウシュウ  
ノウサギ

トウホク  
ノウサギ

スタッフ用駐輪場

動物資料館

シカ舎

休憩所

ニホンシカ

正面がアスファルトと刈り込みの植栽に囲まれた「車道」ではなく、  
視界に緑が多く感じられるよう園路を改修する

P1  
P2  
P3

現在比較的緩やかな斜面を3分割し、シカのバドックにすることで、  
里山の森の中で動物に遭遇する(探す)楽しみを来園者に提供する

ニホンシカ外周フェンス 新設

ニホンシカ獣舎 新設

里山エリア

(アプローチ・  
エントランス  
エリア)

シカ舎

カエル池

堆積土 浚渫

黒：既存を示す  
赤：ランドスケープ設計範囲  
青：他工事範囲(ランドスケープにて設計)

xxx.xx：測量図または現地実測値  
(測量図2019.12.09受領)  
(xxx.xx)：想定値



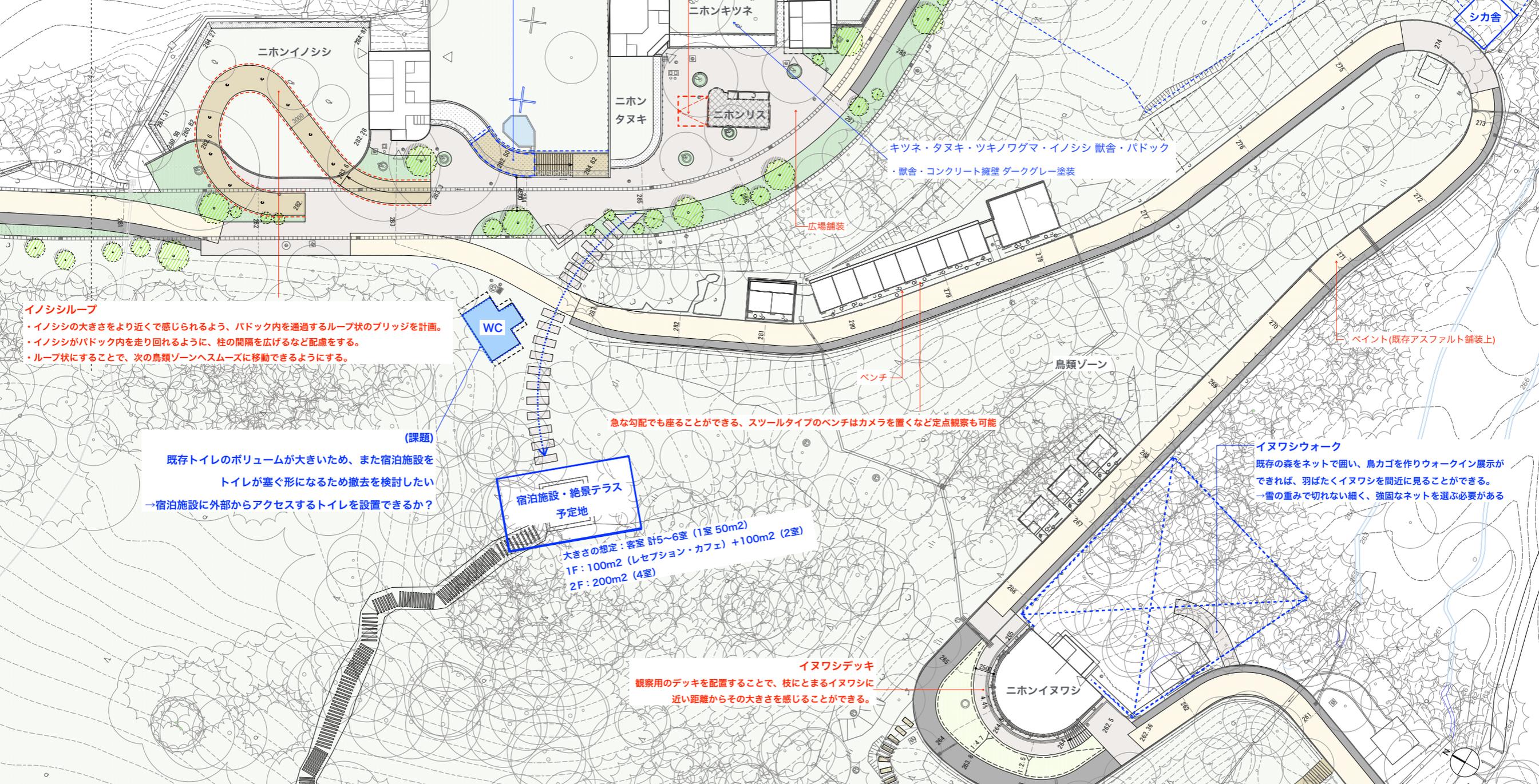
**ツキノワグマテラス**

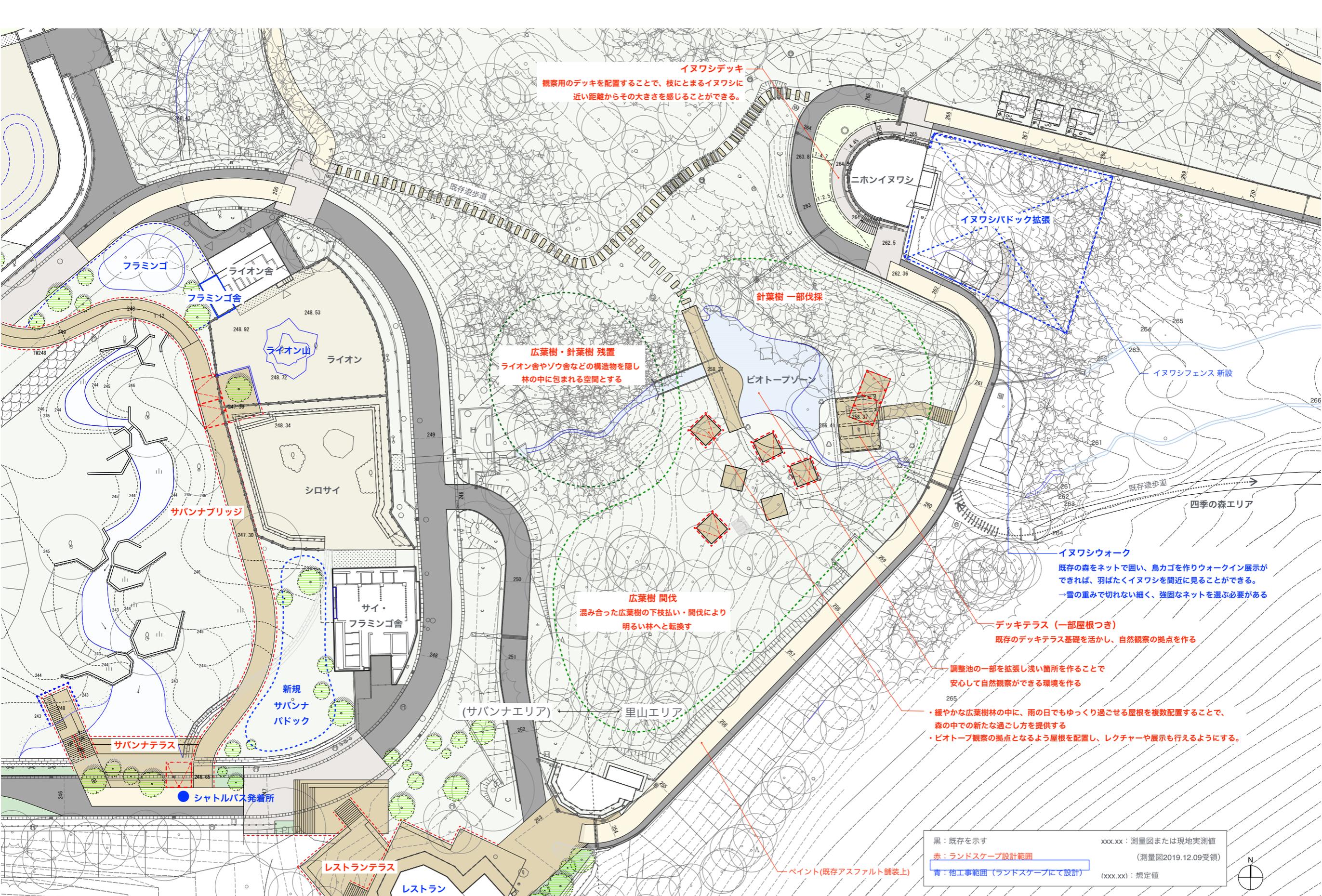
- ・新たな改修の目玉になるように、ツキノワグマパドックに降りていく、テラスを計画する  
→ツキノワグマと見下ろすのではなく同じ目線で見るようにする
- ・テラスからの視点で自然に見えるように、クマの遊具や、プール、背景の木立をしつらえる
- ・テラスの高さをクマより少し低くなるように設定する
- ・クマのパドックは斜面の延長で埋めることで、よりクマが歩き回れるようにする
- ・背面のコンクリート壁/間知ブロックは背景になるようダークグレーに塗装する

黒：既存を示す  
 赤：ランドスケープ設計範囲  
 青：他工事範囲（ランドスケープにて設計）

xxx.xx：測量図または現地実測値  
 (測量図2019.12.09受領)  
 (xxx.xx)：想定値

牧場  
 エリア  
 里山エリア





**イヌワシデッキ**  
 観察用のデッキを配置することで、枝にとまるイヌワシに  
 近い距離からその大きさを感じることができる。

**イヌワシパドック拡張**

**広葉樹・針葉樹 残置**  
 ライオン舎やゾウ舎などの構造物を隠し  
 林の中に包まれる空間とする

**針葉樹 一部伐採**

**ビオトープゾーン**

**イヌワシフェンス 新設**

**四季の森エリア**

**広葉樹 間伐**  
 混み合った広葉樹の下枝払い・間伐により  
 明るい林へと転換す

**イヌワシウォーク**  
 既存の森をネットで囲い、鳥カゴを作りウォークイン展示が  
 できれば、羽ばたくイヌワシを間近に見ることができる。  
 →雪の重みで切れない細く、強固なネットを選ぶ必要がある

**デッキテラス (一部屋根つき)**  
 既存のデッキテラス基礎を活かし、自然観察の拠点を作る

調整池の一部を拡張し浅い箇所を作ることで  
 安心して自然観察ができる環境を作る

- ・緩やかな広葉樹林の中に、雨の日でもゆっくり過ごせる屋根を複数配置することで、森の中の新たな過ごし方を提供する
- ・ビオトープ観察の拠点となるよう屋根を配置し、レクチャーや展示も行えるようにする。

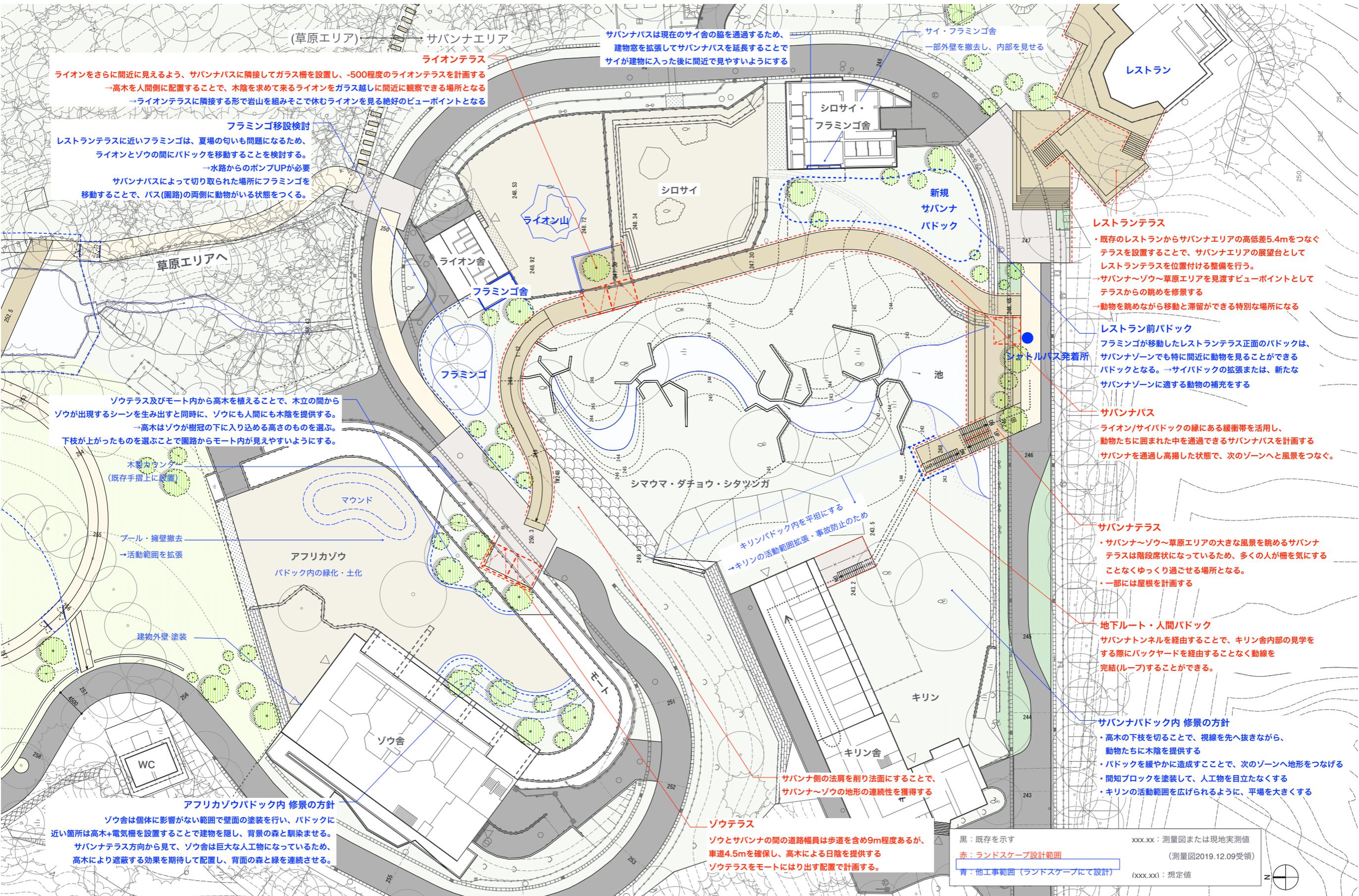
(サバナエリア)

里山エリア

ペイント(既存アスファルト舗装上)

黒：既存を示す	xxx.xx：測量図または現地実測値
赤：ランドスケープ設計範囲	(測量図2019.12.09受領)
青：他工事範囲(ランドスケープにて設計)	(xxx.xx)：想定値





(草原エリア) → サバンナエリア

**ライオンテラス**  
 ライオンをさらに間近に見るよう、サバンナバスに隣接してガラス柵を設置し、-500程度のライオンテラスを計画する  
 →高木を人間側に配置することで、木陰を求めて来るライオンをガラス越しに間近に観察できる場所となる  
 →ライオンテラスに隣接する形で岩山を組みそこで休むライオンを見る絶好のビューポイントとなる

**フラミンゴ移設検討**  
 レストランテラスに近いフラミンゴは、夏場の匂いも問題になるため、ライオンとゾウの間にパドックを移動することを検討する。  
 →水路からのポンプUPが必要  
 サバンナバスによって切り取られた場所にフラミンゴを移動することで、バス(園路)の両側に動物がいる状態をつくる。

草原エリアへ

**ライオン山**  
 ライオン舎  
 フラミンゴ舎  
 フラミンゴ

ソウテラス及びモート内から高木を植えることで、木立の間からゾウが出現するシーンを生み出すと同時に、ゾウにも人間にも木陰を提供する。  
 →高木はゾウが樹冠の下に入り込める高さのものを選ぶ。  
 下枝が上がったものを選ぶことで園路からモート内が見えやすいようにする。

木立のウツク (既存手摺上に設置)

マウンド

**アフリカゾウ**  
 パドック内の緑化・土化

プール・擁壁撤去  
 →活動範囲を拡張

建物外壁 塗装

モート

**アフリカゾウパドック内 修景の方針**  
 ゾウ舎は個体に影響がない範囲で壁面の塗装を行い、パドックに近い箇所は高木+電気柵を設置することで建物を隠し、背景の森と馴染ませる。  
 サバンナテラス方向から見て、ゾウ舎は巨大な人物になっているため、高木により遮蔽する効果を期待して配置し、背面の森と緑を連続させる。

WC

ゾウ舎

**ライオン舎**  
**フラミンゴ舎**  
**シロサイ**  
**シロサイ・フラミンゴ舎**  
**ライオン山**  
**ライオンテラス**  
**ライオン**  
**シマウマ・ダチョウ・シタツツガ**  
**池**  
**キリン**  
**キリン舎**  
**キリン**  
**モート**  
**レストラン**  
**レストランテラス**  
**サイ・フラミンゴ舎**  
**サイ**  
**サイ・フラミンゴ舎**  
**一部外壁を撤去し、内部を見せる**  
**新規 サバンナパドック**  
**レストラン前パドック**  
**ライオン/サイパドックの縁にある緩衝帯を活用し、動物たちに囲まれた中を通過できるサバンナバスを計画する**  
**サバンナを通過し高揚した状態で、次のゾーンへと風景をつなぐ。**  
**サバンナテラス**  
**サバンナ～ゾウ～草原エリアの大きな風景を眺めるサバンナテラスは階段席状になっているため、多くの人が柵を気にすることなくゆっくり過ごせる場所となる。**  
**一部には屋根を計画する**  
**地下ルート・人間パドック**  
**サバンナトンネルを経由することで、キリン舎内部の見学をする際にバックヤードを経由することなく動線を完結(ループ)することができる。**  
**サバンナパドック内 修景の方針**  
**高木の下枝を切ることで、視線を先へ抜きながら、動物たちに木陰を提供する**  
**パドックを緩やかに造成することで、次のゾーンへ地形をつなげる**  
**間接ブロックを塗装して、人工物を目立たなくする**  
**キリンの活動範囲を広げられるように、平場を大きくする**  
**サバンナ側 の法肩を削り法面にすることで、サバンナ～ゾウの地形の連続性を獲得する**  
**ゾウテラス**  
**ゾウとサバンナ間の道路幅員は歩道を含め9m程度あるが、車道4.5mを確保し、高木による日陰を提供する**  
**ゾウテラスをモートにはり出す配置で計画する。**  
**黒：既存を示す**  
**赤：ランドスケープ設計範囲**  
**青：他工事範囲(ランドスケープにて設計)**  
 xxx.xx：測量図または現地実測値  
 (測量図2019.12.09受領)  
 (xxx.xx)：想定値

今回計画で一番大きく造成を行う草原エリア/カンガルーパススルー

水鳥池パススルー  
草原エリアの玄関となる  
ブリッジ下部に柵を設け、ハクチョウとカモを分ける

針葉樹の一部を伐採し、明るい森を作る  
→切りすぎて猛禽類に水鳥が襲われないように留意する

カンガルーパススルー  
外周柵はH2.5m、園路際はロープ程度の仕切りとし、  
来園者が通り抜けるパススルー展示とする

水鳥池パススルー  
ハクチョウ カモ

バッファローパッド内に降りる階段テラスを作り、バッファローを見上げることができる視点を作る  
→バッファロー側には巨石を並べるなどして安全を確保する

現在のカンガルーパッドは最小限の隔離用とし、  
バッファローパッドを拡張する

橋を渡ると、  
開けた草原にカンガルー/エミューを  
パススルーで見ることができる

バッファローパッドは現在背面にあたるメタセコイヤの巨木による  
木陰のエリアからも眺められるよう園路と斜面にベンチを計画する  
→現在もメタセコイヤ側にいることが多い

サバンナテラス方向からカンガルーパッドの草原が見えるように地形を造成する

既存のトイレは新しい園路から一定の距離をおくことで、動物の世界と隔てる

カンガルーパススルー

カンガルー  
エミュー

アメリカバイソン

WC

ゾウ舎

草原エリア

草原の伸びやかな風景から道路が見えないように、  
木柵などで遮蔽し草原の世界観を作り込む

プレーリードッグは展示を取りやめる方針

黒：既存を示す  
赤：ランドスケープ設計範囲  
青：他工事範囲（ランドスケープにて設計）

xxx.xx：測量図または現地実測値  
(測量図2019.12.09受領)  
(xxx.xx)：想定値

雨の日でも炎天下でもゆっくり眺められるよう、カワウソの他にも四阿(屋根付き広場)を配置する

カワウソ舎の側面にも窓を作り、園路を整備することでよく動き回って楽しいカワウソを様々な方向から見えるようにする。

ブリッジ下層部は、既存の高木とセットで計画した階段状のテラスにすることで「ふれあい園」で遊ぶ子供たちをゆっくり眺めていることができるようにする

既存の休憩所をBBQ・ビール・キャンプ道具などを販売する場所としてビレッジとセットで検討する

現在、休憩所とこども園は高低差が4m程度あるため別のゾーンとして独立して存在しているが、その高低差をつなくテラスは見通しが良く、新たな魅力をこの場所に与えることができる。

BBQヴィレッジ

大きな牧草地の斜面の中でびのびと過ごす動物たちを対面する斜面から人々が眺め、ゆっくり過ごせる場所として屋根付き広場群「ヴィレッジ」を配置する  
→ヴィレッジでは1日過ごせるようにBBQやキャンプなどの設備も検討する

ビューマ

オオツノヒツジ

ウシ

放牧  
ウシ・ラマ・アルパカ  
ロバ・ヤギ・ヒツジ

ふれあい  
ヤギ・ヒツジ

管理棟

WC

動物病院  
候補地

動物病院は道路に近く、見学したい時と見せたくない時の両方に対応できるような配置が望まれる。カモシカパドックは里山ゾーンへ移設するため、その跡地前の平場への移設を検討する。

ラクダの展示を取りやめることで、ポニーパドックを拡張する。

BBQビレッジ

放牧エリアは水辺の近くまで拡張し、柵だらけにならないようにウシ・アルパカ・ラマ・ロバ・ヒツジ・ヤギを混合飼育をずる計画

河畔林の整備

ブリッジ

将来計画である「ニンゲン園」との連絡道の正面に、歩行者用のブリッジを付けることで、牧場ゾーン・こども園とピクトリア・ニンゲン園をつなく  
→またブリッジは展望台としての役割も担い、こども園と牧場ゾーン全体を見渡すことができるビュースポットとなる

移設するウサギ/モルモット舎の屋上をブリッジの一部とする事でコストダウンを図る

外周柵 H=1.0~1.5m

既存フジ棚

ポニーに乗り楽しんでいる人の姿を、ゆっくりと眺められる場所としてポニーパドック周辺を緩やかな勾配の芝生広場とする

外周柵 H=2.5m

ポニー乗り場や、炎天下でも日陰で順番待ちが出来るように四阿(屋根付き広場)を配置する  
→4.5m x 4.5mを二基

黒：既存を示す  
赤：ランドスケープ設計範囲  
青：他工事範囲(ランドスケープにて設計)

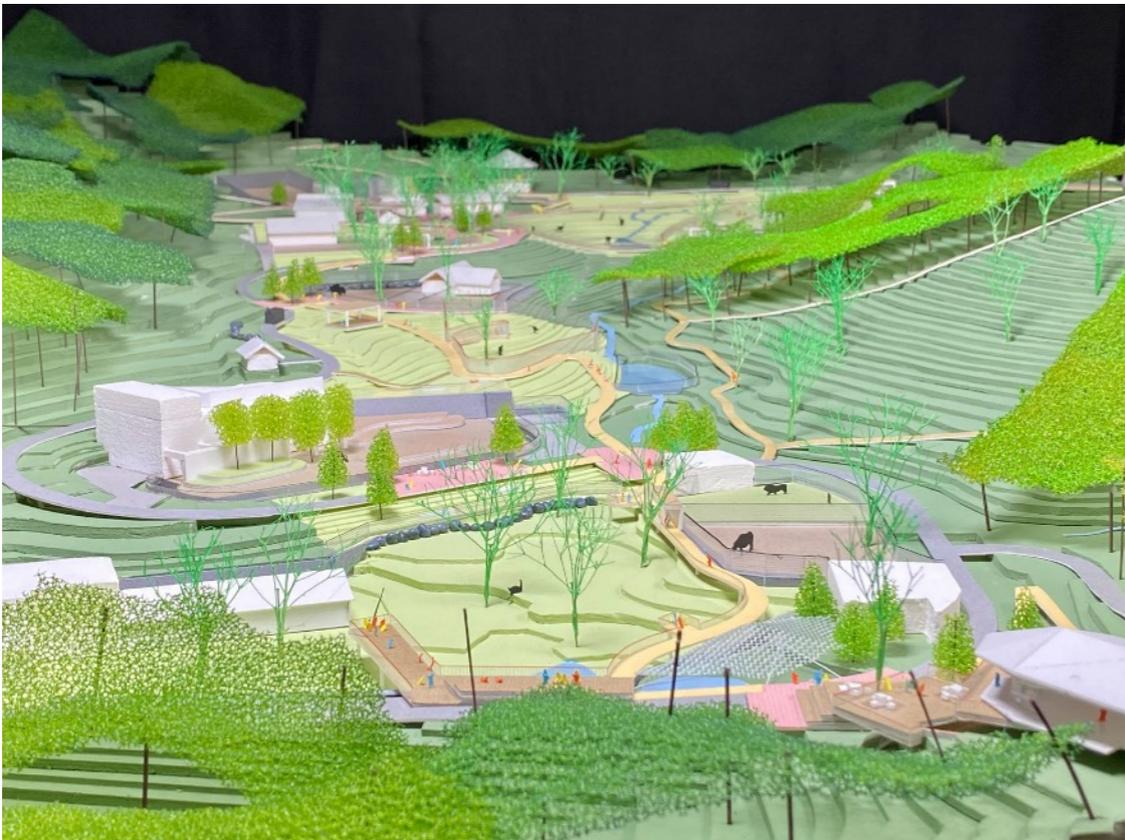
xxx.xx：測量図または現地実測値  
(測量図2019.12.09受領)  
(xxx.xx)：想定値

参考：ランドスケープデザイン模型写真



全体計画平面図  
S≒1/1800(A3)  
20191108

参考：ランドスケープデザイン模型写真



# ランドスケープスケジュール予定

MZO\_設計作業工程表

		2020/R2												
工種別	月 日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ランドスケープ計画	MPM計画説明↑	1/2	2/1 (基本設計完了)	3/15	調整期間	(実施設計)							▽見	
	スタッフ説明2↑		↑有識者会議 パッケージ提出↑	↑有識者会議 パッケージ提出↑	→他工事との調整、概算見積り調整			スタッフ説明4↑	スタッフ説明5↑		入札準備			
	各種協議-1				各種協議-1 ・公園施設振り分け	各種協議-2	各種協議-3 ・建築指導課			各種申請? ・計画通知 ・工事届				
							・構造形式決定							
									・構造物見積り					
ランドスケープ工事								先行伐採1			先行伐採2	先行伐採3	▽入札?	
建築設計			業者決定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・申し送り事項の反映</li> <li>・工区分け</li> <li>・動線、設備などの計画の調整</li> </ul>									
サイン設計			業者決定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイン計画</li> <li>・舗装、壁面グラフィック</li> </ul>									
パドック設計			業者決定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パドック造成計画</li> <li>・パドック内改修</li> <li>・パドック内植栽計画→アニマルウェルネス</li> </ul>									
設備設計/施工者	ヒアリング中	業者決定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋設物関係の位置</li> <li>・各種設備容量</li> </ul>										

# 盛岡市動物公園デザインパートナー のご紹介

 **write a light** Co.,Ltd.

株式会社 ライト・ア・ライト

# 盛岡市動物公園 愛称発表

ZOOMO

ズーモ

ZOOMOに込めた思い

ZOO MORIOKA

これからも

**ZOO**っ と盛岡と共に在り

**MO**っ と愛される動物公園に

「～**ZOOMO**（ずも）な」

永く語り継がれる動物公園

環境のこと、動物のことを伝える

“命の語り部”としての動物公園

# ZOOM ON

動物に、環境に、都市の課題に

フォーカスする動物公園

ZOOMO

ズーモ